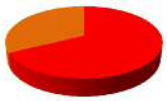
タイトル	農業栽培の支援に関するアンケート
概要	現在、加齢・ケガ・病気等により定植・収穫・出荷時期等に農作業が困難になる農家が増加しています。その中で、農業に関心があり農家の支援をしたい市民・消費者が、有効に農家・農業を支援するシステムの構築により、生産者と市民・消費者が農に携わり、農地を守り、育てる施策が重要であると考えています。その施策の活用に向けて、無償による援農(農家が行う農作業を支援すること)に関する状況や思いを把握するためのアンケートです。

対象者数:253人　　回答者数:206人　　回答率:81.4%

1. 会員番号を入力してください。
(会員番号はメール本文に記載しています)（必須。3文字。半角英数(記号)）

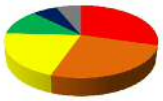
2. 性別を教えてください。（必須）

回答	選択人数	%
男性	67人	32.52%
女性	139人	67.48%



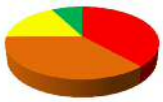
3. 年齢を教えてください。（必須）

回答	選択人数	%
20代	13人	6.31%
30代	53人	25.73%
40代	61人	29.61%
50代	42人	20.39%
60代	24人	11.65%
70代以上	13人	6.31%



4. 援農に参加したいと思いますか。（必須）

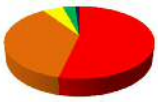
回答	選択人数	%
農業に関心があり、参加したい	16人	7.77%
機会があれば参加したい	79人	38.35%
農業に関心があるが、参加はできない	75人	36.41%
参加したくない	36人	17.48%



援農について「参加したい」との回答が46.1%もあり、農業にかかわることに対して、多くの方に前向きな姿勢が感じられた。

5. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。
援農について、どれくらいの頻度で参加が可能ですか。

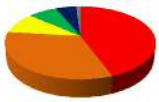
回答	選択人数	%
恒常的・日常的に手伝いができる	1人	1.05%
時期や時間帯等によるため、事前の調整が必要	51人	53.68%
土曜や日曜等に限定されるため、事前の調整が必要	35人	36.84%
その他	2人	2.11%
未回答	6人	6.32%



「農業に関心があり、参加したい」「機械があれば参加したい」と回答された95人中、90.5%の方が季節、時間、曜日などの何らかの制限を設けておられる。

6. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。
援農について、1日あたりどれくらいの時間で作業が可能ですか。

回答	選択人数	%
1日	9人	9.47%
半日	31人	32.63%
2～3時間	42人	44.21%
1時間	7人	7.37%
その他	2人	2.11%
未回答	4人	4.21%

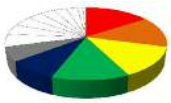


「農業に関心があり、参加したい」「機械があれば参加したい」「参加したい等」と回答された95人中、1日が可能の方の割合より、半日、2～3時間を選ぶ割合が多く、農家さんの要望の聞き取りが必要。

7. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。援農について、どのような種類の作業が可能ですか。(複数回答可) (14個以内)

回答	選択人数	%
耕運(機械作業の補助)	21人	5.51%
田植え(機械作業の補助)	24人	6.30%
種まき・苗植え	50人	13.12%
草刈り・草ひき	33人	8.66%
稲刈り(機械作業の補助)	16人	4.20%
水やり	50人	13.12%
収穫	59人	15.49%
荷揃え・包装・出荷	53人	13.91%
耕運機(機械作業)	12人	3.15%
トラクター(機械作業)	18人	4.72%
田植え機(機械作業)	14人	3.67%
稲刈り機(機械作業)	12人	3.15%
草刈り機(機械作業)	10人	2.62%
その他	3人	0.79%
未回答	6人	1.57%

上位 6項目のみ色分け表記

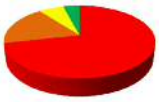


収穫 15.5%
荷揃え・包装・出荷 13.9%
種まき・苗植え 13.1%
水やり 13.1%
草刈り・草ひき 8.7%
田植え(機械作業の補助) 6.3%

「農業に関心があり、参加したい」「機械があれば参加したい」と回答された95人中、多くの方が機械作業では無く、手作業で行う作業が可能であると回答されており、問6と同じように農家さんの要望の聞き取りが必要。

8. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。援農について、個人かグループ・団体どちらでの参加になりますか。

回答	選択人数	%
個人	68人	71.58%
グループ・団体	6人	6.32%
どちらでも	17人	17.89%
未回答	4人	4.21%

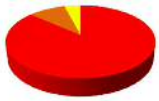


個人 71.6%
どちらでも 17.9%
グループ・団体 6.3%
未回答 4.2%

「農業に関心があり、参加したい」「機械があれば参加したい」と回答された95人中、89.5%が、「個人」又は「どちらでも」と答えておられ、作業内容によっては、複数の援農者を確保しなければならない。

9. 問4で「農業に関心があり、参加したい」「機会があれば参加したい」と回答された方に質問です。支援が必要な生産者と、農家の支援をしたい市民・消費者が情報を登録し、双方が連絡を取り合えるシステムがあれば利用しますか。

回答	選択人数	%
利用する	82人	86.32%
利用しない	9人	9.47%
未回答	4人	4.21%

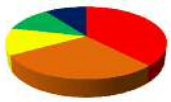


利用する 86.3%
利用しない 9.5%
未回答 4.2%

援農を進めていくには、援農を手助けするシステムがあれば、86.3%の方が利用すると回答されています。

10. 問4で「農業に関心があるが、参加はできない」「参加したくない」と回答された方に質問です。参加できない、参加したくない理由を教えてください。(複数回答可) (4個以内)

回答	選択人数	%
農業に関心がないから	15人	10.00%
参加する時間がないから	57人	38.00%
体力に自信がないから	43人	28.67%
その他	17人	11.33%
未回答	18人	12.00%

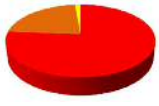


参加する時間がないから 38.0%
体力に自信がないから 28.7%
未回答 12.0%
その他 11.3%
農業に関心がないから 10.0%

「農業に関心があるが、参加はできない」「参加したくない」と回答された111人中、多くの方が、「参加する時間がない」「体力に自信がない」と回答されています。

11. 農業栽培の経験がありますか。(必須)

回答	選択人数	%
農業栽培の経験があり、技術・知識がある	3人	1.46%
農業栽培の経験があるが、技術・知識はない	45人	21.84%
農業栽培の経験がない	158人	76.70%



農業栽培の経験がない 76.7%
農業栽培の経験があるが、技術・知識はない 21.8%
農業栽培の経験があり、技術・知識がある 1.5%

今回のアンケートでは、農業栽培の経験者が23.8%となり、4人に1人の割合であることがわかりました。

12. 問11で「農業栽培の経験があり、技術・知識がある」と回答された方に質問です。
技術・知識を習得された機会はなんですか。(複数回答可)(8個以内)

回答	選択人数	%
家が農家である	1人	12.50%
親戚・知人が農家である	1人	12.50%
貸農園・福祉農園で経験したことがある	2人	25.00%
農業栽培に関する講習を受けたことがある	1人	12.50%
自宅や借地で経験したことがある(畝)	2人	25.00%
自宅や借地で経験したことがある(プランター)	1人	12.50%
体験農業に参加したことがある	0人	0%
その他	0人	0%

貸農園・福祉農園で経験したことがある 25.0%
自宅や借地で経験したことがある(畝) 25.0%
家が農家である 12.5%
親戚・知人が農家である 12.5%
農業栽培に関する講習を受けたことがある 12.5%
自宅や借地で経験したことがある(プランター) 12.5%

13. 問11で「農業栽培の経験があり、技術・知識がある」と回答された方に質問です。
栽培経験のある作物はなんですか。(複数回答可)(47個以内)

回答	選択人数	%
米	0人	0%
キャベツ	2人	3.17%
ブロッコリー	2人	3.17%
カリフラワー	0人	0%
レタス	0人	0%
白菜	1人	1.59%
水菜	3人	4.76%
小松菜	2人	3.17%
シロ菜	1人	1.59%
菊菜	1人	1.59%
ホウレン草	2人	3.17%
菜種	0人	0%
ベビーリーフ	0人	0%
トマト	3人	4.76%
キュウリ	3人	4.76%
ナス	3人	4.76%
ピーマン	3人	4.76%
トウガラシ	2人	3.17%
スイートコーン	2人	3.17%
カブ	1人	1.59%
ダイコン	3人	4.76%
ラディッシュ	0人	0%
サツマイモ	3人	4.76%
ジャガイモ	3人	4.76%
カボチャ	0人	0%
オクラ	2人	3.17%
ずいき	0人	0%
若ごぼう	0人	0%
里芋	3人	4.76%
タマネギ	3人	4.76%
ニンジン	3人	4.76%
ニンニク	2人	3.17%
枝豆	1人	1.59%
ソラマメ	1人	1.59%
三度豆	0人	0%
エンドウマメ	2人	3.17%
キヌサヤ	1人	1.59%
ネギ	1人	1.59%
ワケギ	0人	0%
イチゴ	2人	3.17%
ブドウ	0人	0%
イチジク	0人	0%
ミカン	0人	0%
モモ	0人	0%
キウイ	0人	0%
花	2人	3.17%
その他	0人	0%
未回答	0人	0%

上位 6品目のみ色分け表記

水菜 4.8%
トマト 4.8%
キュウリ 4.8%
ナス 4.8%
ピーマン 4.8%
ダイコン 4.8%

14.「農業栽培の支援」についてご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。（1000文字以内） 回答（一部要約・抜粋） 回答者：81人（39.32%） 未回答：125人（60.67%）
農業従事者も高齢化になり人手不足が深刻な状態。若い世代に引継いでいかなければならない案件。まずは若い世代に興味を持ってもらうことが大事である。支援という形でいきなり農業に携わる事に抵抗はあるかも知れないが、まずは体験できる環境あればよいのではないか。
援農という言葉やニーズを初めて知ったのでなんの知識もないですが、農業高校や農学部などの学生が参加できるような、教育機関との連携はどうかなーと思いました。
農業栽培の経験が無いので、具体的に何を手伝えるか分からないが、機会があればやってみたい。気軽に参加できるようなシステムなら、若い人や主婦も参加しやすいと思う。「支援」となると堅苦しいかも。
小学校高学年・中学・高校での授業にとりいれればいいと思う。そうすればお米・野菜のありがたみがわかり、自分たちで育てたものは苦手なものでも食べてみようとするのではないでしょうか。
無償で援農はなかなか難しいのでは？市が少しでも援農希望者に賃金を支給すれば援農希望者が増えるのでは
生活環境の見直しで体を動かし汗をかき栽培の楽しみが子供から老人まで共有できる。自然の恵み農業栽培は大切な人生教育の起源となる様に思います。現代のインターネット検索からの実体験へと出来れば健康で魅力ある農業栽培の支援と成る様に思います。
市政だよりで呼びかけたらどうか。援農を必要としている実態も資料として載せないと回答しにくい。全くのボランティアなのか、収穫物のおすそわけがあるのかなども。不親切なアンケートだ。
農業栽培の支援と言う言葉自体初めて知りました。こういう機会がなければ知らないままだと思うので、一般市民にも情報提供して知ってもらうことがまず必要ではないかと思います。
とてもいい制度だと思います。農業に関心のある人は多いと思いますが、実際に個人の家で栽培ができる人は限られています。自転車で通えるぐらいの距離に農家があれば助かるので、農家も支援者も同じ位たくさんの人の登録を望みます。作業が無償なのは構わないですが、とれた作物を少しだけ譲って頂ければ嬉しいです。援農システム実行の際には、そのようなギブアンドテイクの制度もきっちりと設けておいてほしいです。
農業は、拘束時間が長く、つらい作業が多い仕事で、支援したくてもなかなか難しいのではないかと思います。ですので、定植から出荷まで一連の作業を行う方と、定植のみ、出荷のみという風に作業を分けて行う方に分ければ、多くの方に支援してもらいやすくなるのではないかと思います。
援農システムを構築する事は良いことと思いますが、無償ではシステムの維持・運営が困難と思います。善意だけに頼るのではなく、双方の利益に繋がる方法が必要と思います。
実家は兼業農家で、現在も実家と嫁ぎ先では畑で農作物は作っているので、農業がいかに大変で生半可な気持ちで出来るものではないと思っています。なので無償ボランティアでするものではないと思います。収穫出来た物で支払うとかにしてはどうでしょうか。

援農には賛成だが、行政が生産者と市民・消費者の間に立って、使いやすいシステムを構築する必要があるのではと考えます。無償だけでは参加しにくい部分もあるので、作った作物を貰えるような仕組みも取り入れたらよいのではとの意見にはこれから考えていかなければならないと思います。

【総括】

多くの市民の方々が、援農だけでなく、農業全体について興味を持たれていることがわかりました。何らかの形で農業に参加したいとの思いが伝わってきました。東大阪市の農業従事者も、他の産業と同じかそれ以上に高齢化となっています。このままでは、田畑を持っていても、農作物の栽培が出来にくくなっています。今回のアンケート結果を元に、これからの東大阪市の都市農業のあり方について、考えていきたいと思います。

※「%」は小数点第3位を切り捨てしているので、合計値に+−0.1%の誤差が生じる場合があります。